杉並区立東原中学校　学校図書館だより

School Library

２０２０．１２．１１発行　12月号

もうすぐクリスマスですね。そして、もう少しで冬休みです。胸が踊ります!!クリスマスは皆さん何を頼みますか？こんな本欲しい！あんな本欲しい！なんて言う願い事があれば図書館にお任せ!!自分へのクリスマスプレゼントとして本を選んでみましょう！

（担当：１ーA 女子）

冬休み貸出が始まります！

11 日（金）から冬休み前につき、
8冊　貸出できます。
返却期限も、年明けの **1/12(火)**
までと、長めに設定しています。
ぜひご利用ください！

未返却の本はありませんか？

「督促票」をもらった人！！！

期限を過ぎた「延滞本」があると、返却するまでは、新たに本を借りることができません。また、あなたが長く借りていることによって、読みたくても読めない人がいます。

必ず、期間内に返しましょう

私と読書　体育科の先生

「線は、僕を描く」　　砥上　裕將

この本は水墨画を題材とした小説です。

両親を事故で亡くした主人公があるきっかけで水墨画に出会います。少しずつ水墨画に魅了されていく主人公の成長と、登場人物との賞をかけた熱い勝負が見どころです。読み始めから話の中にスッと入り、彼描く線が頭の中で何度も浮かんでくる。そんな感じでした。

読み終えた後には、充実感でいっぱいになれるところもこの本の魅力の一つです。スポーツじゃないけどスポーツにもつながる一生懸命さや、一歩を踏み出す勇気の大切さが伝わってくる作品だと思うので、ぜひたくさんの人に読んでもらいたいなと思います。

（担当：２―Ｂ女子）

私と読書　国語科の先生

幼い頃、私が最初に出合った本は『青い鳥』と『ニルスの不思議な旅』でした。母が読んでくれたこの本は、不思議な体験や冒険でワクワクする楽しい時間でした。過去の思い出がよみがえる、本もまた過去と現在と未来を繋ぐものかもしれません。

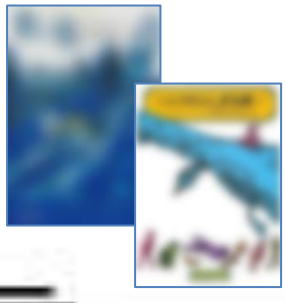
小学校で読んだ昔話には、地獄絵図がありました。悪い事をしたら、地獄の血の海で泳がされ、針の筵の上を歩かされる。悪事をはたらいたら罰があたる。そのような教えや知恵もまた、本から学びました。やがて、リンドグレーンの本に出合い、彼女の作品を夢中になって読みました。外国の子どもたちの自由な発想や行動、生活習慣や風景、風土の違いは、驚きと発見とそして共感でした。

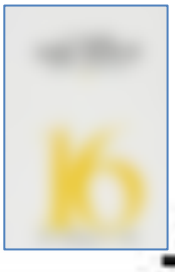
中学生になり、何がきっかけだったのか、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を読みました。その文体や登場人物たちに引き込まれ、一気に８巻まで読みました。司馬遼太郎の作品を暫く読むと同時に国語の教科書に載っていた夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、志賀直哉等々、明治から昭和初期にかけての本を片っ端から読んでいきました。ぶらりと本屋に入って何を読もうかと、本を眺めることも好きでした。けれども、学生の頃は部活も忙しく、本の虫だったわけでもありません。ただ、本に親しむ生活はしていたように思います。

現在、我が家には家族共有の本棚があって、各々の読んだ本が並んでいます。「なに読んでるの？」「これ面白かった。」「これ読んでるよ。」などのちょっとした会話が、本を読むきっかけにもなっています。小説、エッセイ、詩、本屋大賞受賞作、宇宙…それこそジャンルを問わずです。『風が強く吹いている』も我が家の本棚で見つけた一冊です。個々に弱さや欠点を持った10人の大学生たちが、葛藤しながらも成長していき、箱根駅伝を目標に襷を繋いでいく話です。お正月恒例の箱根駅伝と重ねて読んでみるのもいいかもしれません。また、『16歳の教科書』は、なぜ学び、何を学ぶのか。勉強と仕事はどこでつながるのか、講義形式で書かれていて、目から鱗の言葉もあり、面白く読みやすかったです。

本は、心が落ち着かないときや、悲しい時でも、読んでいくうちに日常を離れて別世界に入っていくこともできます。自分には少し難しいかな、と思われる本を読んでみるのもいいと思います。なぜなら、何でも吸収する10代のみんなには本を読む力があるからです。本は、心を豊かにする、心の栄養です。まずは気軽に本を手に取り、何かを感じたら、それが自分と本との良い出合いになるかもしれません。

（担当：１－C女子）

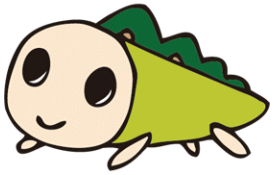




「聞かせや本舗」があなたに聞かせます！

12／25に阿佐谷図書館へ読み聞かせに行きます。それに先駆け東原中図書館で先生・生徒を対象に読み聞かせをします。当日、うまくいくようにぜひ応援する気持ちで聞きに来てください！

１２月１８日（金）１６時から　東原中図書館



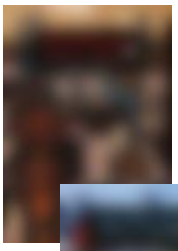
図書委員がオススメする本

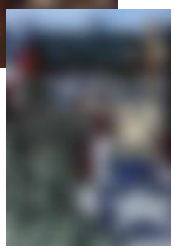
『オー・ヘンリー傑作選』オー・ヘンリー　B９３３へ

この本は、２０篇入っています。そのうちの１つの「賢者の贈り物」を紹介します。この物語は、貧しい夫婦がお互いのためにプレゼントを用意するまでのお話です。デラは自分の美しい金髪を売り、ジムは大切にしていた時計を売ってしまいました。なぜおススメしたかというとデラが自分の金髪を売ってまでプレゼントを渡そうとしたところです。ぜひ読んでみてください。

（担当：１－A 男子）

『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史　上下』ハワード・ジン　２５３じ1





この本は、アメリカでの歴史の大きな出来事がとても細かく書かれています。歴史上の大きな人物の行動から、大衆の行動まで詳しく書かれています。そこには、人々の残虐な行動が多く書かれており、とても読みごたえがあります。特に僕が印象に残ったエピソードは、コロンブスという探検家がアラワク族を一人残らず奴隷にし、アラワク族たちに金を持ってくるようにいい、持ってこられなかったら手を切断するというものでした。僕はそれまでコロンブスは偉大な探検家だと思っていましたが、彼の残虐な一面に驚かされました。このように、この本には歴史上の偉大な人物の意外な一面が見られてとても面白いです。ぜひ読んでみてください。

（担当：１－B 男子）

『サンタクロースっているんでしょうか？』３８６ち

この本は、【サンタクロースっているんでしょうか？】という小さい子どもから来た手紙での質問に社説の中でした新聞社の返事の話です。この本が面白いと思った理由は、サンタがいるかどうかの理由が納得のいく説明で、しかも詳しく読みやすいからです。

サンタがいるか知りたい人、知りたくない人もぜひ読んでみてください。

（担当：１－C 男子）

『クリスマス・キャロル』　ディケンズ　B９３３で

ロンドンの下町で商売をしているスクルージは性格が悪く、嫌われていました。クリスマスの前日、七年前に死んだ共同経営者のマーレイの霊が現れて言います。「これからお前を三人の幽霊が訪れることになるだろう」その言葉の通り、スクルージの元に三人の幽霊が現れ、それぞれ現在、過去、未来を見せます。自分の未来を見たスクルージは過去、現在、未来を見つめていく決心をし、改心します。

十九世紀イギリスのクリスマスの様子の描写に注目しても楽しいです。

クリスマスの夜にディケンズの書いた名作に触れてみるのも、良いのではないでしょうか。

（担当：１－B 女子）